

宿泊研修が始まります

校長 松澤 朗

宿泊研修の取り組みが始まっています。この時期の最大の行事です。各学年その研修への願いを大切にしながら一生懸命に取り組んでいます。各学年のスローガンは以下の通りです。

3年生 足跡～長崎の声を描く～

2年生 ATM (それぞれのアルファベットに合い言葉があります。)

1年生 成長

現在の宿泊研修は、体験的な活動を主としています。それぞれの学年で、「戦争・平和・命」「漁村体験」「山の体験」を意識して各学年とも体験的な活動を行い、学級づくりの一環として行います。事前の準備も相当の時間をかけています。PCで調べたり、班で見学する順番を調べたりしています。総合的な学習の時間としての活動も含まれます。

また、今の学年・学級での仲間との関わる思い出づくりも、宿泊研修では大切な一面です。研修から帰ってきて、強くつながる仲間関係になってほしいと願っています。

体調等のことでご心配がありましたら、担任や学年担当にお話してください。どうしようかなあとお悩みにならず遠慮なくご相談ください。全員が無事帰ってくることを最優先とします。

安全第一ですので、学校も宿泊施設等の防災対策を消防署等に確認するなど、安全対策を旅行者と共にしています。問題はないと報告を受けています。いい研修旅行になることを願っています。

お知らせ

2年1組と2年2組南側の木3本を市の教育委員会に切ってもらいました。とてもすっきりして生徒たちにも好評です。お陰で校舎と「つきやま」の間を車の通行が可能になりました。安全対策上、一方通行でお願いします。学校は安全な場所でなければなりません。渋滞や混雑を防ぐために「つきやま」周辺の駐車はご遠慮ください。



5月 ちょっと待つ とにかく一息待つ

教育推進課

親が子どもに説教しようと思ったら、何時間だってできます。でも何か言いたくなったときに、そこで5秒待つんです。「早くしなさい!」「それはダメッ!」と子どもに言うのを、5秒でも10秒でも待っていたら、子どもは何かおもしろいことをします。

スタニスラフスキーの『俳優授業』にはこんなことが書いてあります。演出家が俳優に歩いてみるように指示して、そばから「そんな風に歩く人があると思うのかね?」とか「重心をとって」とか「行く手に目をやって」とか言うんです。そうすると俳優はだんだんコチコチになって、動けなくなる。つまり、正しいことを立て続けに言うと、人間は動けなくなるのです。

それと同じで、人を育てるときも、何も正しいことを言えばいいわけじゃない。親子でも、冷たい目で見られて正しいことばかり言われたら、絶対たまらないですよ。子どもには、正しいことをパッパッと言った方がいい、と思うのは、親がちょっとあせりすぎなのと、指導・助言する立場の方が楽だからです。それだとエネルギーが要らない。逆に子どもの方から出てくるものを待つのは、すごくエネルギーが必要です。とにかく一息待つ。(河合隼雄『こころの子育て』より)